



※本資料は当社ホームページで公開しております動画「CAMベトナムウィークリー(毎週月曜更新)」を元に作成しております。右のQRコードからご視聴いただけます。



情報提供用資料

2024年10月7日

# CAMベトナムウィークリー (先週のVN指数：9/27-10/4)



|         | 週間     | 月間     | YTD    |
|---------|--------|--------|--------|
| VN指数    | -1.57% | -1.35% | 12.45% |
| VN30指数  | -1.21% | -1.21% | 18.10% |
| VN中型株指数 | -1.99% | -2.13% | 9.97%  |
| VN小型株指数 | -1.69% | -1.74% | 2.13%  |

先週のVN指数は1290.92ポイントから1270.60ポイントへと1.57%の反落となりました。ベトナム市場は2週連続で上昇したことで、利益確定の売りに押されて始まりました。取引時間中に1300ポイントの大台を回復する場面もありましたが、イランがイスラエルへのミサイル攻撃を実施したことで中東情勢の悪化が懸念されたことや、ベトナムの不動産企業の業績不安が意識されたことなどを背景に下落基調となりました。

規模別に見ますと、大型株のVN30指数が-1.21%と下落に転じました。また中型株指数が-1.99%、小型株指数が-1.69%と、それぞれ反落しております。

|                    | 週間    | 月間    | YTD   |
|--------------------|-------|-------|-------|
| 為替レート<br>(ドン対円レート) | 0.29% | 2.19% | 1.49% |

通貨ベトナムドンにつきましては、米景気の底堅さが意識され、米長期金利がやや上昇したことで、米ドルに対して弱含みとなりました。一方、日銀の追加利上げ観測が引き続き後退する中、ドル高円安が続きました。週間ではベトナムドンは円に対して+0.29%と続伸しております。

| セクター  | 騰落率   | セクター  | 騰落率   |
|-------|-------|-------|-------|
| 金融    | -0.9% | 素材    | -0.3% |
| 不動産   | -4.3% | 公益事業  | -0.7% |
| 生活必需品 | -1.8% | エネルギー | 0.2%  |
| 一般消費財 | -2.2% | 情報技術  | -0.2% |
| 資本財   | -2.3% | ヘルスケア | -1.1% |

セクター別に見ますと、9セクターが下落いたしました。特に左上から2番目の不動産が-4.3%、左下の資本財が-2.3%と、それぞれ反落しております。一方、右真ん中のエネルギーが中東情勢の悪化懸念から原油価格が持ち直す中、+0.2%と反発いたしました。



| 銘柄名[ティッカー]          | 騰落率   | 銘柄名[ティッカー]          | 騰落率   |
|---------------------|-------|---------------------|-------|
| シーバンク（金融）[SSB]      | +2.9% | ビンコム・リテール（不動産）[VRE] | ▲5.7% |
| TPバンク（金融）[TPB]      | +2.1% | ベカメックス（不動産）[BCM]    | ▲4.8% |
| ベトナム繁栄商業銀行（金融）[VPB] | +1.3% | ビンホームズ（不動産）[VHM]    | ▲4.4% |

大型株VN30指数構成銘柄の騰落率を見ますと、中堅民間銀行のシーバンクが+2.9%、TPバンクが+2.1%と、大手民間銀行のベトナム繁栄商業銀行が+1.3%と、それぞれ続伸しております。

一方、下落銘柄は、商業施設の開発運営を手掛けるビンコムリテールは-5.7%と続落いたしました。また、工業団地開発大手のベカメックスが-4.8%と反落し、不動産開発大手のビンホームズが-4.4%と下落を続けました。

### VN指数直近1年の推移



先週のVN指数は反落いたしました。ベトナムの景気企業業績は回復基調を続けているとみられます。実際、7-9月期の実質国内総生産は前年同期比7.4%増へと伸びを高めております。

一方、バリュエーション面では、足元の予想PERが10.5倍と過去平均を下回る水準にあり、依然として割安感が注目されます。

以上